


## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	宗谷管内 中頓別町
取組事項（テーマ）	こども園から中学校までの一貫した教育の推進
地域の実情と取組のねらい	町内の幼児教育施設（保育所型認定こども園）、小学校及び中学校が交流を深め、中学校卒業までの一貫した教育の推進を目指す。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統一様式によるこども園、小学校及び中学校の学校要覧を作成し、1冊に合本</li> <li>・ 幼・小・中教育連携協議会を開催し、各校（園）の現状や教育内容を交流するとともに、子どもに関する情報を共有</li> <li>・ 定例教育委員会に、各校（園）の代表者が参加し、各校の取組について、教育委員、教育委員会事務局職員を含め共有</li> <li>・ 各校（園）の学校運営協議会への各校の管理職及び教職員の参加</li> <li>・ 各校（園）の入学式、運動会、学芸会、卒業式等の行事への各校（園）教職員の参加及び、教職員相互の情報交流</li> <li>・ 各校（園）の教職員による合同研修の実施</li> </ul> <div data-bbox="1134 584 1433 987" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">令和2年度 <b>中頓別町</b> <small>北緯45度産しの里ロマン豊づく大自然のまち</small></p> <p style="text-align: center; background-color: #00c000; color: white; padding: 5px;"><b>学校要覧</b></p> <p style="text-align: center;">中頓別町立認定こども園 中頓別町立中頓別小学校 中頓別町立中頓別中学校</p>  </div> <p style="text-align: center;">【合本した学校要覧】</p> <div data-bbox="1023 1043 1426 1350" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  </div> <p style="text-align: center;">【各校（園）の教職員による合同研修】</p>
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各校（園）の代表者や教職員が参加する機会を複数回設定したことにより、相互の教育内容の理解が深まるとともに、教職員間の交流の促進につながった。</li> <li>・ 各校（園）の情報を共有したことにより、教育課題が明確になり、町内教育の一貫した取組を推進することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フェイスシートを作成するなど、子ども一人一人の記録様式及び校種間の引継ぎ体制を確立する必要がある。</li> </ul>


## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	宗谷管内 枝幸町（音標地区）
取組事項（テーマ）	幼児教育施設、小学校、地域間の連携
地域の実情と取組のねらい	<p>音標保育所は、乙忠部・風烈布・音標・上音標地区の児童を受け入れており、現在 24 名の児童が入所し、年長児が 6 名の小規模の施設である。小規模小学校への入学となることから、予めより世代間交流を実施している。</p> <p>地区のコミュニティー促進を図ることで、小学校職員との日頃からの交流により、児童が不安を取り除き、期待をもって入学を迎えられるようにすることを目的としている。また、各行事における職員交流により子どもの育ちをより適切に就学時への引継ぎに繋げるようにする。</p>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観日の見学（幼児教育施設の保育者が小学校の授業を参観）</li> <li>・各種行事への職員の参加（入学式・運動会・発表会・卒業式・退所式等）</li> <li>・運動会・マラソン大会練習の見学</li> <li>・地域のお祭り及び敬老会への合同参加</li> <li>・避難訓練の協力</li> <li>・就学に向けた保育所見学及び指導要録による引継ぎ</li> <li>・生活科「地域探検」の授業協力</li> <li>・体育館解放</li> </ul>
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時に職員や上級生の顔がわかることで幼児の安心感につながる。</li> <li>・小学校の雰囲気や事前に知る事で親子共に緊張が和らぎ、入学への期待感を高めることに繋がる。</li> <li>・特別支援を必要とするお子さんへの早めのアプローチが可能となった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音標以外の地区との交流では、取り組み内容の工夫、改善が必要である。</li> <li>・感染症予防を踏まえて、連携や交流のあり方を検討する必要がある。</li> <li>・職員の人事異動により、(1～3年)で新たに交流の工夫を図っていく必要がある。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	オホーツク管内 網走市
取組事項（テーマ）	視点を明確にした各関係機関との引継ぎの充実
地域の実情と取組のねらい	<p>網走市では、複数の幼児教育施設の幼児が市内各小学校に入学することから、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた学びの連続性を確保することをねらいとして、幼児教育施設と小学校との引継ぎを推進している。</p>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 就学前の1月に「小学校見学」を実施し、生活科の体験授業を通して、幼児教育施設から小学校生活への円滑な移行を図っている。</li> <li>• 複数の幼児教育施設の幼児が市内各小学校に入学することから、全ての小学校で丁寧な引継ぎを行うために、2月の早い時期から、指導要録や各種資料に基づいた引継ぎを実施している。</li> <li>• 引継ぎは、教務部が窓口となり、特別支援教育コーディネーターが同席するよう体制を整備している。</li> <li>• 特に配慮が必要な家庭については、網走市子育て支援課を中心とした要保護児童対策地域協議会やケース会議等を実施し、学校、教育委員会、保健センター、家庭児童教育相談室等の関係機関が情報共有・支援方策の検討を行っている。</li> <li>• 毎年、「地域とともにある学校づくり」を教育関係者や地域住民とともに考える、「学力向上フォーラム in 網走」に幼児教育施設の職員の参加を呼び掛けている。</li> <li>• 引継ぎの際、幼児教育施設に対して、市内の小学校第1学年～第3学年児童を対象とした休日の児童の学習の場として、学習サポート事業「あばしり寺子屋」の実施について情報提供している。</li> </ul> <div data-bbox="1031 633 1442 898" style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: right;">【関係機関による引継ぎの様子】</p>
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 小学校において「引継ぎチェックリスト」を作成し、幼児教育施設に事前に提示したことにより、引継ぎの視点が明確になり、適切に情報共有を図ることができた。</li> <li>• 引継ぎの場に特別支援教育コーディネーターが同席することにより、入学後の適切な指導に結びつけることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 発達に遅れがあったり、家庭や幼児教育施設で困り感を抱えていたりする幼児が多くいることから、幼児の特性に応じた支援を適切に行うために、こども発達支援センター等、関係機関との連携をより一層強化する必要がある。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	オホーツク管内 紋別市													
取組事項（テーマ）	すべての児童生徒の育ちと子育てを応援する取組													
地域の実情と取組のねらい	<p>紋別市では、安心して幼児児童生徒を生み育てられるやさしいまちづくりを目指し、全ての幼児児童生徒の育ちと子育てを応援するため、家庭と地域で支えていくことをねらいとし「紋別市子育てサポートファイル」を作成している。</p>													
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「紋別市子育てサポートファイル」は、市の健康推進課保健指導係が中心となり作成し、市内の小生までの全ての幼児児童に配付し、以下のように活用している。             <ul style="list-style-type: none"> <li>【活用方法】</li> <li>□ 乳幼児健診や育児相談の際には母子健康手帳と一緒にファイルを持参し、必要なページを関係者に見てもらったり、書いてもらったりすることができる。</li> <li>□ 保育所・認定こども園や小学校・中学校・高校に入学する際の資料として活用できる。</li> <li>□ 専門的な機関に子育てのサービスやサポートを受けたい時、これまでの子育てや成長の記録をもとに的確に伝え、役立てることができる。</li> </ul> </li> <li>・教育委員会や各関係機関の職員で構成する「児童連携会議」において、「紋別市子育てサポートファイル」の活用状況や、特別な支援が必要な幼児児童生徒の支援の在り方に関する情報共有を行っている。</li> </ul>	<div data-bbox="1118 573 1431 999"> <p>紋別市子育てサポートファイル ～ 育ちと学びの応援ファイル ～</p>  <p>なまえ _____</p> </div> <div data-bbox="1118 1003 1431 1458"> <p>子育て振り返りシート</p> <p>お父さんのお名前 _____</p> <p>お母さんのお名前 _____</p> <p>お誕生日 年 月 日 (子 あり) (なし) (なし) (なし) (なし) (なし)</p> <p>お住 居</p> <table border="1" data-bbox="1134 1099 1410 1171"> <thead> <tr> <th>思いどころ、できること</th> <th>驚きのあること、お役にたつこと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>□ 0歳 以下 (小学校以上は学習とわらえてください)</p> <table border="1" data-bbox="1134 1189 1410 1238"> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p>□ 1歳 以下 (小学校以上は運動とわらえてください)</p> <table border="1" data-bbox="1134 1256 1410 1305"> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p>□ 2歳 以下 (小学校以上は運動とわらえてください)</p> <table border="1" data-bbox="1134 1323 1410 1373"> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p>□ 3歳 以下 (小学校以上は運動とわらえてください)</p> <table border="1" data-bbox="1134 1391 1410 1440"> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p>□ その他に思っていることや、書いてほしいことはありますか?</p> <p>_____</p> <p>紋別市子育てサポートファイル</p> </div>	思いどころ、できること	驚きのあること、お役にたつこと										
思いどころ、できること	驚きのあること、お役にたつこと													
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の全ての幼児児童生徒に「紋別市子育てサポートファイル」を配付し、活用したことにより、幼児教育施設と学校だけでなく、放課後デイサービスや児童センター等、様々な関係機関と幼児児童生徒の支援につながる情報を共有することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別に支援が必要な幼児児童生徒について、一人一人の実態に合った継続的な支援が必要であることから、進学の際に「紋別市子育てサポートファイル」が確実に活用されるよう、福祉課及び教育委員会から保護者に対して周知する必要がある。</li> </ul>													

【サポートファイル】

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	オホーツク管内 斜里町
取組事項（テーマ）	子どもの実態に応じ「ねらい」を明確にしたスタートカリキュラムの作成
地域の実情と取組のねらい	<p>斜里町では、小学校就学時に幼児教育施設での生活との違いに戸惑いを感じたり、適応が難しかったりする児童が多く見られたことから、小学校の生活科授業において合科的な指導を行うなど、幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続をねらいとして、スタートカリキュラムの充実に係る取組を推進している。</p>
取組内容	<p>・スタートカリキュラム作成に当たっては、教務部が中心となり、幼児教育とのつながりを大切にし、以下のように週ごとの「ねらい」と「身に付けさせたい力」を明確にしている。</p> <p>・スタートカリキュラムにおいて、児童の発達を踏まえた学習活動の工夫を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「なかよしタイム」：一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築いたりすることをねらいとした、ゲームや伝え合う活動の実施</li> <li>□ 「わくわくタイム」：「学校探検」や「名刺づくり」等、合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習</li> <li>□ 「ぐんぐんタイム」：教科等を中心とした学習</li> </ul>
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートカリキュラム作成において、週ごとの「ねらい」と「身に付けさせたい力」を明確にしたことにより、入学当初、複数の教職員が第1学年の学級に入る際の指導のポイントを共有することができた。</li> <li>・「なかよしタイム」「わくわくタイム」「ぐんぐんタイム」を位置付け、学習の重点化を図ったことにより、児童の発達の特性を生かした具体的な活動や体験を取り入れた授業を工夫することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年間を見通した学校教育全体の改善につなげるため、教務部だけでなく、管理職をはじめ特別支援教育コーディネーター等による「スタートカリキュラム作成委員会」を立ち上げ、学校全体でのスタートカリキュラムの質の向上を図る必要がある。</li> </ul>

1 週目	
ねらい：小学校での施設の使用の仕方やまじりを理解し、楽しい学校生活をスタートさせる。	
身に付けさせたい力	
生活	○朝の準備、帰りの準備の仕方を知り、自分で取り組む。
	○通学路や交通ルールを覚え、安全に登下校する。
	○トイレや水飲み場を正しく使う。
○一日の生活の流れがわかり、時間の区切りを意識する。	
学習	○学習中の姿勢やルールを覚える。
2 週目	
ねらい：小学校での生活習慣や学習のまじりを理解し、学習への期待を持つ。	
身に付けさせたい力	
生活	○給食の準備や片付け、歯磨きの流れを理解し、自分で行う。
	○あいさつや返事を大きな声でする。
	○身の回りの物、学習で使ったものを自分で整理する。
○次の学習の準備をしてから休み時間にする。	
学習	○先生や友達の話最後まで静かに聞く。
○職員室や保健室・校長室への出入りの仕方がわかり、相手に用事を伝える。	

【「ねらい」等の実際】



【「わくわくタイム」の様子】

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	オホーツク管内 興部町
取組事項（テーマ）	スタートカリキュラムの説明と引継ぎ
地域の実情と取組のねらい	<p>町内に保育所が2園、幼稚園が1園あり、小学校2校へ入学する。幼児教育施設と小学校、町が一体となり、幼小連携・接続の取組を推進することにより、子ども一人一人の育ちと学びをつなぐことをねらいとする。</p>
取組内容	<p>1 幼児が小学校等への就学に期待感を高め、児童が自分の成長を実感できる環境づくりの構築</p> <p>(1) 保育者と教職員双方が、顔見知りになるお世話になる、過度に遠慮しない環境づくり</p> <p>(2) 年間を通じて、計画的・継続的に取り組めるような環境づくり</p> <p>2 具体的取組</p> <p>(1) スタートカリキュラムの説明、年度末の引継ぎ</p> <p>(2) 興小まつりへの園児招待、1日入学説明会の実施</p> <p>3 取組内容</p> <p>(1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえ、幼稚園、保育所からの意見を取り入れたスタートカリキュラムの作成を行い、3月中旬までに訪問し説明</p> <p>(2) 小学校の新年度担当が決まったあと、年長担任との引継ぎを行い、要録、健康状態・アレルギー等、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の視点、個別の教育支援計画に準ずる内容について情報共有</p> <p>(3) スタートカリキュラムは、複数の教員が協力して対応しており、7～12月にスタートカリキュラムの評価改善を行い、次年度に備えている。</p> <p>(4) 12月上旬の「興小まつり」において3年生以上が店を出す「縁日」に園児を招待し、入学後の不安を取り除く工夫をしている。</p> <p>(5) 感染症拡大防止を徹底しながら、幼稚園、保育所の保育者を参観日に招待できるようにすることで、さらにスタートカリキュラムの評価・改善が図られると考える。</p>
成果・課題	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領等の把握、定期的な幼稚園、保育所への参観を行うことで、次年度以降に就学する子どもたちの特性を把握する必要がある。</li> <li>・幼小合同研修会の企画・参加や年間を通じた引継ぎ機会の確保、交流活動の窓口の明確化・連携を図る必要がある。</li> </ul>



【訪問して説明】




【年長担任との引継ぎ】

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	十勝管内 鹿追町
取組事項（テーマ）	幼小の円滑な接続に向けたスタートカリキュラムの交流
地域の実情と取組のねらい	<p>町内にあるこども園から、ほぼ全ての園児が鹿追小学校に入学する。町全体で幼小中高の一貫した教育に取り組む中、幼小の連携の充実によってこども園と小学校の生活をスムーズに接続するとともに、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを基にした体系的な学びの場により子どもたちの力を育てていくことをねらいとする。</p>
取組内容	<p>・小学校に入学直後の落ち着きのなさが長期間持続してしまうなどの「小1プロブレム」を解決するため、児童の視点に立った「幼児期教育と小学校教育の円滑な接続」の在り方を検討することをねらいとして、次の取組を行った。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 認定こども園と小学校の交流会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回では、前年度の年長組学級担任が新1年生の授業参観を行い、交流会議にて児童の育ちなどを交流した。</li> <li>・園児の日常生活の様子や児童の育ちから、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの内容や焦点化の視点等を交流した。</li> <li>・第2回では、第1回の交流内容をこども園と小学校の活動に反映させた後の成果や課題について、実態交流を行い、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの内容の見直しを行った。</li> </ul> </li> <li>○ こども園教諭、支援センター職員による小学校の授業参観 <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども園教諭、支援センター職員が1年生の授業参観を行い、参観後に児童の成長の様子を踏まえた意見交流を行った。</li> </ul> </li> <li>○ 小学校教員によるこども園の保育参観 <ul style="list-style-type: none"> <li>・年長クラスを中心に、各発達段階における保育が、どのように行われているかという視点で、小学校教員がこども園を見学した。</li> </ul> </li> </ul> </div>
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学後、児童が小学校での学習活動へ円滑に移行する様子が見られた。</li> <li>・こども園での遊びを通じた体験が、小学校での学習の深い学びへつながる過程など、こども園と小学校教員の間で共通理解を図ることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育と学校教育の違いを踏まえ、それぞれがどのような力を育み、そのためにどのような活動をしていくのか等、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムに基づき、一層、教職員間の共通理解を図ることと、円滑な実施に向けた組織的な体制づくりが必要である。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	十勝管内 上士幌町
取組事項（テーマ）	小学校教員によるこども園での出前授業の実施
地域の実情と取組のねらい	<p>認定こども園の年長クラスは、全員が同じ小学校に入学することから、園では、体験入学の前に、小学校の教員による出前授業を実施している。体育的な活動と図工的な活動を通して、小学校の教員が園児の活動の様子を観察する機会とするとともに、園児が、小学校の授業の雰囲気を感じたり、見通しをもって安心感をもったりすることをねらいとしている。</p>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月に行われる小学校での体験入学より前に、小学校の教員が園を訪問する出前授業を2回行っている。</li> <li>・1回目の体育的な内容の出前授業では、準備体操やリズム体操、体づくり運動（ペアワークによる手押し車など）に園児が興味を示し、積極的に参加する様子が見られた。</li> <li>・2回目の図工的な内容の出前授業では、教室で、「紙コップ」を使った人形づくりを行い、はさみとのり、ペンなどを使いながら、教員の説明を聞きながら活動を楽しむ様子が見られた。</li> <li>・取組の準備や連絡調整は、こども園の教育支援コーディネーターを中心に行っている。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターは、外部との連携の際に橋渡し役として業務を行っており、小学校以外に、町の子ども発達支援センターなどの連携等で活躍している。</li> </ul> <div data-bbox="986 1021 1433 1352" style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: right;">【こども園での出前授業の様子】</p>
成果・課題	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児が、小学校への入学に向けて、楽しみや不安を感じている時期であるため、小学校の教員から声をかけられたり、一緒に活動したりすることで、園児が小学校生活をイメージすることができる機会となった。</li> <li>・出前授業の中で、園児が集中して小学校教員の指示を聞いたり、模範を見たりして運動する姿を見て、こども園の教員が日常の保育につなげることができた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の打合せ時間が十分にもてなかったことから、活動中、こども園側の教員が受け身になる様子が見られた。全ての幼児が活動に円滑に参加できるようにするため、こども園の教員と小学校教員との役割分担を行う必要がある。</li> </ul>



## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	十勝管内 新得町
取組事項（テーマ）	「就学児情報交流会」による引継ぎの充実
地域の実情と取組のねらい	<p>教育委員会学校教育課が中心となり、新得町内の就学予定児の「就学児情報交流会」を開催し、関係者全員の共通理解の下、引継ぎを行うことにより、幼稚園、保育所から小学校への円滑な移行をねらいとしている。</p>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新得町では、幼稚園と保育所から、新得小学校に入学するため、町教育委員会の主催により、幼・保・小合同で「就学児情報交流会議」を行っている。</li> <li>・「就学児情報交流会議」には、幼稚園と保育所の教員、小学校の教職員、発達支援センター職員、保健師、教育委員会学校教育課職員が参加している。</li> </ul> <div data-bbox="895 591 1436 994" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;"><b>【就学児情報交流会議の様子】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園、保育所に在籍する年長児の学習面や生活面に関する情報や小学校の支援体制等について、参加者が情報交換を行い、次年度の入学に向けて共通理解を図っている。</li> <li>・特別な教育的支援を必要とする園児の個別の教育支援計画等を関係者で確認し、小学校へ円滑に移行できるよう引継ぎを行っている。</li> </ul>
成果・課題	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就学予定の子どもたちの状況や来年度の学校体制を確認することにより、今後の教育相談の進め方など、就学に向けた具体的な取組についての情報交流ができた。</li> <li>・10月の段階で、幼稚園と保育園の教職員が学校体制や就学の情報を知ることができるため、移行に向けた支援の方法を園内で改めて理解を深めることができた。</li> <li>・各関係機関と顔合わせをすることにより、学校や教育委員会の職員の顔が分かり、担当者とのやり取りが円滑になった。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者全員が集まる日程を調整することが難しく、年1回の開催となっているため、協議の時間が限られる。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	釧路管内 釧路市（阿寒地区）
取組事項（テーマ）	小学校生活への期待を高め、円滑な小学校生活のスタートを目指す
地域の実情と取組のねらい	地域に在住している子どものほとんどが入園し、3年間の園生活を過ごした後、多くの園児が同じ小学校に入学する。計画的に異校種と情報交換を行うとともに、年間を通して小学校を訪問し、学校生活を見学したり、児童と触れ合う機会を設けたりする中で、学校生活を見通したり、あこがれを抱いたりすることをねらいとする。
取組内容	<p>1 年間指導計画に位置付けた異校種等との交流          年度当初、担当者が集まり、幼稚園、小学校、中学校、高等学校が異校種等との交流を図る四校交流会や小学校の学校行事の参観、中学生の幼稚園における職場体験などの日程等を確認し、互いの年間指導計画に位置付け、計画的に交流を実施している。</p> <p>2 小学校との交流          幼稚園は、園行事の七夕祭りで園児が作成したみこしを担いで小学校を訪問し、パレードの様子を児童に披露している。児童と実際に触れ合うことにより、小学校に対する親近感を抱くきっかけとしている。          また、四校交流会では、七夕祭りで触れ合った経験のある児童等と一緒に遊んでいる。児童から「小学校に早くおいでね」と声をかけられ、園児が小学校へ入学したい気持ちを高めている様子が見られる。</p> <p>3 学校行事の参観          幼稚園は、小学校の招待を受け、運動会やマラソン大会、学芸会の様子を参観している。園児は、運動や発表をしている姿など、普段の遊んでいる姿とは異なった児童の姿を参観することにより、小学校生活へのあこがれを抱いている。</p> <p>4 体験入学への参加          一日入学では、第1学年の児童と園児と一緒に国語科や算数科の学習に挑戦している。園児は、「学校は勉強をするところである」と実感するとともに、「難しいところは教えてもらえる」という安心感をもつことができるなど、勉強ができた喜びを自信につなげている。また、小学生は4月から第2学年としての自分の姿に期待を高める機会となっている。</p>
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年間を通じた交流により、園児は園生活との違いを知り、小学校生活を見通し、安心感や自信、児童への親近感やあこがれをもって小学校へ入学することができている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1回の交流時間は短いですが、取組を継続することにより、望ましい活動ができている。今後も、ねらいを達成するための効果的な交流の在り方について検討していく必要がある。</li> </ul>



【運動会の総練習の見学】



【一日入学】

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	釧路管内 釧路市（阿寒湖地区）
取組事項（テーマ）	資料を活用した引継ぎにより、円滑な小学校生活のスタートを目指す
地域の実情と取組のねらい	<p>地域には幼稚園と小学校がそれぞれ一つずつであるため、日常的な連携が図られている。「幼稚園幼児指導要録抄本」及び釧路市教育委員会が作成した「引継ぎチェックシート」を活用して引継ぎを行うことにより、円滑な小学校生活が始められることをねらいとする。</p>
取組内容	<p>1 引継ぎの方法          小学校の担当教員が幼稚園を複数回訪問し、学級の様子や幼児一人一人の特徴、指導の過程などについて「幼稚園幼児指導要録」及び釧路市教育委員会が作成した「引継ぎチェックシート」を基に引継ぎを行っている。特に持病の有無やアレルギー等については丁寧に情報を共有している。</p> <p>2 「引継ぎチェックシート」の作成          記入の際は、釧路市教育委員会から示されている「判断のめやす」を参考にすることで、各幼稚園が同じ視点で判断することができ、小学校と引継ぎ内容や児童の状況についての共通理解を図っている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;判断のめやす&gt;</p> <p>○ 泣くことなく、楽しく元気に登園できていましたか？          →入学後は環境の変化に戸惑い、登校泣きを起こす子もおります。園での登園の状況から、支援計画を立てる必要の有無について、小学校での検討材料としての情報提供を望みます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>判断のめやす</p> <p>◎：自ら進んで登園する、園に来ることを楽しみにしている</p> <p>○：時々泣くこともあるが、ほとんどの日は元気に登園できている</p> <p>※：週あたりに登園すると決まっている日数の60%以上登園泣りがあるようであれば、その原因や対応について口頭で引継ぎをしてください</p> </div> <p>○ 排泄は自分一人ですみますか？          →排泄は「自立」の代表的な特徴だと捉え、排泄が自立していない、ということは特別な支援を要する可能性がある、と思われます。そのような視点でお答えください。（特別な支援を要する可能性について）</p> </div> <p>3 幼稚園幼児指導要録の作成          「幼稚園幼児指導要録」については、学年の重点や個人の重点を踏まえ、指導の内容や幼児の変容について、以下の3点をポイントに記載している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① できるだけ幼児の望ましい面に着目する</li> <li>② 具体的で分かりやすい表現を心掛ける</li> <li>③ 幼児の望ましい成長に寄与する内容や所見を記述する</li> </ol>
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼稚園幼児指導要録」や「引継ぎチェックシート」等を活用することにより、幼稚園と小学校が幼児の様子について共通理解を図り、円滑な引継ぎを行うことができています。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼稚園幼児指導要録」について、記載する内容を更に充実させるとともに、「引継ぎチェックシート」の効果的な活用について検討する必要がある。</li> </ul>


## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	釧路管内 標茶町（標茶小学校区）												
取組事項（テーマ）	幼稚園・保育園・小学校が連携を図り、円滑な小学校生活のスタートを目指す												
地域の実情と取組のねらい	町内の保育園（2園）と幼稚園（1園）の子どもが同じ小学校に入学するため、「連続性」「一貫性」をキーワードにスタートカリキュラムを作成するとともに、意見交流や授業参観を通して情報を共有し、幼児期と小学校低学年の円滑な接続をねらいとする。												
取組内容	<p>1 小学校、幼稚園、保育園、教育委員会の定期的な協議会の実施 教育委員会が主体となり、幼稚園長や保育園長、小・中学校・高等学校の管理職や特別支援コーディネーターなどを参加者に、年5回、特別支援教育を切り口に園児、児童、生徒の実態について協議している。</p> <p>2 園児の実態把握 学期に1回程度、小学校の教職員が幼稚園・保育園を訪れ、園児の様子を把握している。</p> <p>3 スタートカリキュラムの作成・実施 小学校が主体となり、小学校生活が幼稚園・保育園の遊びや生活を通した学びと連続するよう、「連続性」「一貫性」を意識したい点を3点にしぼり、幼稚園・保育園とスタートカリキュラムを作成、実施している。 また、幼稚園・保育園の保育者は園児の実態把握を丁寧に行い、小学校の教職員と共にスタートカリキュラムを検討している。 【意識したい点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>幼稚園・保育園</th> <th>小学校（第1学年）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活する力</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身辺自立（着替え・排泄・食事等）</li> <li>・生活リズム（園・家庭）</li> <li>・コミュニケーション能力</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習用具の準備</li> <li>・日課表や時間割を意識した学校生活</li> <li>・先生や上級生との関わり方</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>聞く力・学ぶ力</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞く時のルール</li> <li>・話をする時のルール</li> <li>・五感を刺激する遊び</li> <li>・表現活動</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のきまり（学習規律）</li> <li>・問題解決的な学習</li> <li>・体験的な学習</li> <li>・表現活動</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>集団の力</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守るという経験</li> <li>・相談や話し合いで折り合いを付ける経験</li> <li>・学級のみみんなで一つのことをやり遂げる経験</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活のきまりを守る経験</li> <li>・自分の考えや意見を伝える経験</li> <li>・話し合い活動</li> <li>・友だちの考えや意見を尊重する経験</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p>4 スタートカリキュラムの検証 小学校入学後の4月から、幼稚園・保育園の保育者は小学校を定期的に訪問し、スタートカリキュラムに基づいて行われている教育活動を参観する。 8月から12月にかけて、年長児の実態を踏まえ、幼保小合同交流でカリキュラムの見直しを行っている。</p> <p>5 小学校入学後を見通した生活リズムの確立 幼稚園・保育園では年長児の学級において、排泄の時間を決める等、小学校の時間割を意識した一日の流れを組み入れる。また、日々の活動について、めあてを決めてから取り組み、活動後に取組を振り返る時間を設けるなど、小学校での学習を意識した取組を経験させている。</p>		幼稚園・保育園	小学校（第1学年）	生活する力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身辺自立（着替え・排泄・食事等）</li> <li>・生活リズム（園・家庭）</li> <li>・コミュニケーション能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習用具の準備</li> <li>・日課表や時間割を意識した学校生活</li> <li>・先生や上級生との関わり方</li> </ul>	聞く力・学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞く時のルール</li> <li>・話をする時のルール</li> <li>・五感を刺激する遊び</li> <li>・表現活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のきまり（学習規律）</li> <li>・問題解決的な学習</li> <li>・体験的な学習</li> <li>・表現活動</li> </ul>	集団の力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守るという経験</li> <li>・相談や話し合いで折り合いを付ける経験</li> <li>・学級のみみんなで一つのことをやり遂げる経験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活のきまりを守る経験</li> <li>・自分の考えや意見を伝える経験</li> <li>・話し合い活動</li> <li>・友だちの考えや意見を尊重する経験</li> </ul>
	幼稚園・保育園	小学校（第1学年）											
生活する力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身辺自立（着替え・排泄・食事等）</li> <li>・生活リズム（園・家庭）</li> <li>・コミュニケーション能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習用具の準備</li> <li>・日課表や時間割を意識した学校生活</li> <li>・先生や上級生との関わり方</li> </ul>											
聞く力・学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞く時のルール</li> <li>・話をする時のルール</li> <li>・五感を刺激する遊び</li> <li>・表現活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のきまり（学習規律）</li> <li>・問題解決的な学習</li> <li>・体験的な学習</li> <li>・表現活動</li> </ul>											
集団の力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守るという経験</li> <li>・相談や話し合いで折り合いを付ける経験</li> <li>・学級のみみんなで一つのことをやり遂げる経験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活のきまりを守る経験</li> <li>・自分の考えや意見を伝える経験</li> <li>・話し合い活動</li> <li>・友だちの考えや意見を尊重する経験</li> </ul>											
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の教職員が園児の実態や園の活動を把握することにより、小学校の生活が円滑に開始されている。</li> <li>・幼稚園・保育園・小学校が連携してスタートカリキュラムを作成することにより、教職員や保育者が小学校の生活と園生活とのつながりについて理解を深めることができています。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活と小学校の生活のつながりについて、幼稚園・保育園の保護者へ積極的に発信する必要がある。</li> </ul>												


## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	根室管内 羅臼町
取組事項（テーマ）	幼稚園と小学校の交流活動の充実
地域の実情と取組のねらい	<p>本町は2地区にそれぞれ幼稚園と小学校が隣接（1つは施設一体型）しており、園小の連携に適した立地環境にある。このことから、日常的に幼児と児童が交流したり、教職員が互いの保育や授業参観をし合ったりし、幼児と児童の相互の成長を促したり、幼児や児童の実態、互いの教育内容、指導方法について理解を深めたりできるようにしている。</p>
取組内容	<p>1 幼児と児童の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が小学校生活に親しみをもったり、児童が幼児に思いやりをもって関わったりすることをねらいとし、幼児と児童の交流を行っている。</li> <li>・小学校第5学年は、総合的な学習の時間に幼稚園を訪問し、幼児と一緒に遊んだり羅臼町の昆布について説明したりしている。</li> <li>・小学校第1学年は、生活科の学習で幼児を招待し、羅臼町で見つけた秋の素材を用いたおもちゃで遊んだり秋のよさを伝えたりしている。</li> <li>・この他にも、新1年生の1日入学において小学校第1学年の児童が幼児と関わったり、幼稚園と小学校の合同避難訓練やクリーン作戦（ゴミ拾い）、中休みの交流などを行ったりしている。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【生活科で幼児を招待】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【クリーン作戦】</p> </div> </div> <p>2 幼稚園と小学校の教職員の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園と小学校では、幼児や児童の実態を把握したり、互いの教育内容や教育方法を理解したりするために、保育参観や授業参観、園（学校）だよりの交流を行っている。</li> <li>・幼稚園の保育協議に小学校の教員が、小学校の授業研究に幼稚園の教員が参加し、意見交流を行うことにより、互いの教育内容や指導方法を理解することができるようにしている。</li> <li>・長期休業中には、幼稚園と小学校の合同研修会を実施し、幼児教育と小学校教育の接続について、理解を深めている。</li> </ul>
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児と児童の交流により、幼児は小学校生活に親しみ、期待感をもって安心して小学校に入学している。児童は、幼児に思いやりをもって関わったり幼児に分かりやすいように言葉遣いや説明の仕方を工夫したりする様子が見られる。</li> <li>・幼稚園と小学校の教職員の交流により、幼児児童の実態、教育内容や指導方法について相互理解を深めることができ、円滑な接続に向けた指導方法等の改善につながっている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園と小学校の相互のねらいに応じた活動となるよう指導計画を作成するために、事前事後の打合せの時間を確保する必要がある。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	根室管内 根室市
取組事項（テーマ）	幼保小連携会議設置による円滑な連携・接続の推進
地域の実情と取組のねらい	<p>本市は公私保育所（園）4園、幼稚園2園、幼稚園型認定こども園1園から7校の小学校へ入学する。幼保小の連携は十分といえない現状にあり、幼児教育で身に付けた学びを小学校が踏まえて円滑に接続することをねらいとしている。</p>
取組内容	<p>1 育ちと学びをつなぐ接続カリキュラムの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校において「小1プロブレム」と「早期支援が必要な児童」の判断を誤ってしまうことが増えてきている状況にあった。</li> <li>・令和2年7月1日策定の「幼保小連携会議設置要領」に基づき、幼保小の連携の推進について根室市教育委員会の考え方を示した。</li> <li>・幼児期に育んだことを踏まえて、各教科における自覚的な学びにつながるとともに、入学児童が安心して小学校生活を過ごすことができるようスタートカリキュラムを編成した。</li> </ul> <p>2 幼保小の円滑な接続に向けた取組</p> <p>（1）教職員間の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員が幼児教育施設を定期的に訪問し、保育参観を行い、幼児教育で育まれる「学びの芽生え」や「5領域」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」などについて学ぶとともに、幼児教育施設の保育者との交流を図り、幼児教育に関する理解促進を図っている。</li> <li>・小学校への就学に向けた引継ぎは、要録による引継ぎはもとより、就学予定者が幼児教育施設でどのように育ってきたかを小学校教員が把握する必要があるため、保育参観も合わせて行うようにしている。</li> </ul> <p>（2）小学校体験入学の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育施設の幼児が就学する小学校の生活を体験し、小学校入学後の環境変化になれることで、円滑な接続を図り、小1プロブレムの解消につなげている。</li> </ul>  <p>【小学校教員の保育補助】</p>
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小の連携が深まり、児童が安心して小学校生活を送ることができるようになり、「小1プロブレム」の解消が図られた。</li> <li>・幼児教育と小学校教育の違いに関する理解の促進につながるとともに、支援の在り方を共有することにより、幼小の円滑な接続につながっている。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	根室管内 標津町
取組事項（テーマ）	認定こども園と小学校の接続を意識した標津型学習スタイルの基礎づくり
地域の実情と取組のねらい	<p>本町は2地区にそれぞれ認定こども園と小学校、中学校が隣接しており、園小中の連携に適した立地環境にある。このことから、園小中の入学時の引継ぎはもちろん、日常の保育参観や授業参観、研究協議等を通して園児児童生徒の実態や成長の情報共有を進めるなど、きめ細かな引継ぎを通して12年間の子どもの育ちに責任をもつこととしている。</p>
取組内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小学校教員による幼児の観察 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前年度の3学期には、小学校の全教員が保育参観を通して園児を観察し、気付いたことを教員間で共有するなど、組織として引継ぐ体制を整えている。</li> <li>・また、2月上旬に小学校で行う1日体験入学時にも園児の観察を行い、気になる園児については、こども園と情報を共有している。</li> </ul> </li> <li>2 小学校入学時に特別支援学級への在籍が予定されている園児の観察と引継ぎ <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前年度の後半には、小学校の特別支援教育コーディネーターによる観察やこども園との情報共有を行い、入学当初から充実した指導や支援が行えるよう準備を進めている。</li> <li>・また、個別の支援計画や個別の指導計画を用いた引継ぎを行い、切れ目のない一貫した指導や支援が行えるよう努めている。</li> </ul> </li> <li>3 認定こども園こども要録による園児の引継ぎ <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前年度の3月末には、こども要録を基に一人一人の園児についてこども園（管理職・担任）と小学校（管理職・教務主任・養護教諭）で引継ぎを行っている。※管理職間の引継ぎは家庭環境等に問題のある場合</li> </ul> </li> <li>4 年間を通しての引継ぎ準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の教員がこども園の5歳児クラスで保育を補助し、園児を観察している。</li> <li>・また、小学校教員が、行事を参観することを通して園児を観察し、小学校内で情報を共有している。</li> </ul> </li> </ol> <div style="text-align: right;">  <p>【小学校教員の保育補助】</p> </div>
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員が保育を参観したりこども園の職員と情報を共有したりすることにより、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を手掛かりにこども園と小学校の教員が園児の育ちを確認できた。特に、特別な支援を要する園児が増加傾向にあることから成果は大きい。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育を理解することの意義について、教員間で差があることから、小学校においては、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かい、こども園で育まれた資質・能力を更に伸ばしていくことができるようにすることが重要であること等について、理解を深める必要がある。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	根室管内 中標津町
取組事項（テーマ）	発達の段階を踏まえたスタートカリキュラムの編成と実施
地域の実情と取組のねらい	市街地の小学校は複数の幼児教育施設から児童が入学する。そのため、入学時の児童の発達や学びには個人差があり、それぞれの経験や幼児期の教育を考慮したきめ細かい指導が一層必要である。児童が、幼児期の教育における学びと育ちを基盤として、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができるようにスタートカリキュラムを作成している。
取組内容	<p>1 幼児教育施設へのアンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児がそれぞれの幼児教育施設で親しんでいた遊びや歌、活動などについて把握するために、幼児教育施設にアンケートを実施した。</li> <li>・児童が幼児教育施設での生活から小学校生活にスムーズに適応できるよう、アンケートで把握した遊びや歌、活動などをスタートカリキュラムに位置付けた。</li> <li>・同時にそれらがもつ優れた学習効果についても共通理解を図った。</li> </ul> <p>2 幼児期の学びを理解するための研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートカリキュラムを編成・実施するに当たっては、幼児や児童の発達の特性、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことについて共通理解を図る研修を行った。</li> <li>・特に、読みのメカニズムや数概念、三項関係について共通理解を図った。</li> <li>・さらに、スタートカリキュラムの意義や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を確認し、幼児期における遊びを通しての総合的な学びを生かし、具体的な活動や体験を通して感性を豊かに働かせたり身近な出来事から気付きを得て考えたりするなど、中学年以降の学習の素地を形成していくことについて共通理解を図った。</li> </ul> <p>3 スタートカリキュラムの編成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートカリキュラムの編成に当たっては、1時間目を15分ずつに分け、その1つを幼児期に親しんできた遊びや歌、活動を中心に、児童が楽しみながら読み・書き・計算の土台となる力を身に付けられるようにする時間として設定した。</li> <li>・スタートカリキュラムを編成する際には、児童が安心して毎日学校に登校することが楽しいと思えるようにすること、教師がどのような力を身に付けさせたいのかを明確にして週ごとのテーマを設定することに留意した。</li> </ul>
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任を中心に児童の様子をつぶさに見取り、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことを常に意識しながら教育活動を行うことができた。</li> <li>・児童が安心して学校生活を楽しんだり、幼児教育で育まれた力をさらに伸ばしたりすることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育施設の教職員や保護者に児童の様子を見てもらうことを通して、様々な立場からスタートカリキュラムの評価を受け、質の向上を目指す必要がある</li> </ul>